



Infor LN 電子商取引 EDI ユーザ ガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	comecediug (Ucomecediug)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017 年 12 月 19 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	9
電子データ交換 (EDI).....	9
EDI のセットアップ.....	10
第2章 マスタデータ.....	11
マスタデータ.....	11
電子データ交換の導入.....	11
外部 EDI の使用.....	11
内部 EDI の使用.....	12
内部 (マルチサイト) EDI.....	12
デフォルトデータの使用.....	12
EDI デフォルトデータの使用.....	13
組織の使用.....	13
取引先の使用.....	13
第3章 ネットワーク.....	15
ネットワーク.....	15
ネットワークの使用.....	15
ネットワークアドレスの使用.....	15
ディレクトリ構造.....	16
複数のディレクトリの作成.....	16
日付範囲の指定.....	17
例 1.....	17
例 2.....	17
第4章 コードおよび変換テーブル.....	19
コードおよび変換.....	19
コードおよび変換テーブル.....	19
追加コード.....	20
取引先別変換.....	20
文字変換の使用.....	20
受信変換データの使用.....	21

送信変換データの使用.....	21
受信メッセージの変換データ.....	21
変換データ (送信メッセージ).....	21
オーダタイプ変換テーブル (送信).....	22
EDI における取引先.....	22
第5章 変換設定.....	23
変換設定.....	23
変換設定の使用.....	23
変換設定の使用 (名称).....	23
変換設定の使用 (定義).....	24
評価式の使用.....	24
ASCII ファイル.....	24
ASCII ファイル.....	24
追跡ファイルの命名.....	24
単一の ASCII ファイルの使用.....	25
複数の ASCII ファイルの使用.....	25
ファイルの処理.....	26
第6章 インポート/エクスポート.....	27
インポート/エクスポート.....	27
第7章 通信.....	29
通信.....	29
EDI 交換コントローラ.....	29
交換コントローラの使用.....	29
外部 EDI ネットワーク通信.....	30
外部 EDI 通信.....	30
内部 EDI 通信.....	31
複数会社通信.....	31
複数会社通信のセットアップ.....	32
自動通信.....	32
通信の終了.....	32
第8章 メッセージデータ.....	35
EDI メッセージの使用.....	35

EDI メッセージの作成.....	35
送信メッセージの作成.....	35
サポートメッセージ.....	35
サポート EDI メッセージの使用.....	36
取引先別 EDI メッセージの使用.....	36
取引先別メッセージの収集.....	37
EDI メッセージレベルとファイルレイアウト.....	38
メッセージデータ.....	38
保存 EDI メッセージデータ.....	39
保存された EDI メッセージデータのメンテナンス.....	39
参照番号の構築.....	39
メッセージの対話式処理.....	40
エラーありメッセージの再処理.....	40
第9章 履歴.....	41
履歴.....	41
付録A 用語集.....	43
索引	

文書情報

この文書では、電子データ交換 (EDI) の設定と使用方法について説明します。

目的

本書は、電子データ交換 (EDI) の設定と使用方法について説明します。

本書の対象

本書は、EDI 機能の使用方法と定義方法について学習したいユーザを対象としています。

本書の概要

次の表に、本書の章を示します。

第 1 章	概要	EDI とその設定データの概要
第 2 章	マスタデータ	EDI マスタデータの要約
第 3 章	ネットワーク	<u>ネットワーク</u> の設定および使用
第 4 章	コードおよび変換テーブル	受信メッセージおよび送信メッセージ用のコードと変換データの設定および使用
第 5 章	変換設定	<u>変換設定</u> および ASCII ファイルとの関係の定義と使用
第 6 章	インポート/エクスポート	EDI データのインポートおよびエクスポート
第 7 章	通信	外部 EDI 通信および内部 EDI 通信
第 8 章	メッセージデータ	EDI メッセージの作成と使用
第 9 章	履歴	EDI 履歴データの使用

参照

詳細については、以下を参照してください。

- BEMIS の目的、内容、および設定については、BEMIS ユーザガイド U8912 JA を参照
- EDI メッセージに関するビジネス文書のタイプについては、EDI ビジネス文書ユーザガイド U8998 JA を参照
- ビジネス文書タイプの内容および構造については、[Infor EDI](#) の文書定義を参照

本書の使い方

本書は、オンラインヘルプトピックから作成されたものです。したがって、マニュアル内のその他のセクションへの参照は次の例のように示されています。

詳細については、「概要」を参照してください。参照先セクションに移動するには、目次を参照するか、本書の巻末にある索引を使用してください。

下線の付いた用語には、用語集の定義へのリンクが設定されています。本書をオンラインで表示した場合、下線の付いたテキストをクリックすると、本書の巻末にある用語集の定義に移動します。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

次のダイアグラムは、各種標準の開発を示しています。



EDI のセットアップ

EDI 固有のデータセットアップは、次の手順からなります (実行順)。

1. マスタデータ (ページ 11)
2. ネットワーク (ページ 15)
3. コードおよび変換 (ページ 19)
4. 変換設定 (ページ 23)
5. インポート/エクスポート (ページ 27)
6. 通信 (ページ 29)
7. EDI メッセージ (ページ 35)

マスタデータ

EDI 環境のサポートに必要なマスタデータを指定します。

次のマスタデータを指定します。

- EDI パラメータ (ecedi0100s000) セッションの EDI パラメータ
- 組織。詳細は、次の情報を参照してください: 組織の使用 (ページ 13)
- EDI メッセージ。詳細は、次の情報を参照してください: EDI メッセージの作成 (ページ 35)
- サポート EDI メッセージ。詳細は、次の情報を参照してください: サポート EDI メッセージの使用 (ページ 36)
- 取引先別サポート EDI メッセージ。詳細は、次の情報を参照してください: 取引先別 EDI メッセージの使用 (ページ 36)
- セッション別送信メッセージ。詳細は、次の情報を参照してください: 送信メッセージの作成 (ページ 35)

電子データ交換の導入

このアプリケーションでは、導入をしやすいするための次のようなツールを提供します。

- サポートされている取引セット用のデフォルト変換設定
- 取引先およびサポートされているメッセージを識別するメカニズム
- 特定の変換情報に役立つ変換テーブル
- コード識別のためのコードテーブル
- メッセージの生成管理
- メッセージの監査および修正管理

外部 EDI の使用

一般的にデータファイルは、外部取引先との間で商用ネットワーク (付加価値情報通信網: VAN) または非商用ネットワーク (インターネットなど) 上で転送されます。EDI ASCII ファイルの変換は、

サードパーティの変換および通信ソフトウェアを使用して行われ、そこではセキュリティがかけられていないネットワーク上で転送されるデータの暗号化も行われます。

EDI モジュールでは、この変換/通信機能は提供されません。この環境を、外部 EDI と呼びます。

内部 EDI の使用

内部 EDI メッセージの転送も外部 EDI の場合と同様ですが、変換要件と通信要件が異なります。内部 EDI は、複数会社 EDI またはマルチサイト EDI とも呼ばれます。

マルチサイト EDI の導入では、ASCII ファイルは通常、社内ネットワーク (LAN または WAN) を介して転送され、ファイルの暗号化は必要ありません。また、マルチサイト構造におけるすべての会社 (つまりサイト) は ASCII ファイル用に同一のフォーマットを使用するため、ファイルを異なる外部 EDI 標準に変換する必要はありません。

内部 (マルチサイト) EDI

外部 EDI の場合、ASCII ファイルは商用または非商用ネットワークを介して転送する必要があります。この転送では、ASCII ファイルを標準の暗号化メッセージとの間で変換する必要があります。メッセージの暗号化により、データの完全性と安全性が高まり、すべての当事者がサポートするユニバーサルフォーマットが提供されます。

しかし、マルチサイト EDI 実装 (内部 EDI ともいう) では、ASCII ファイルは社内ネットワーク (LAN または WAN) 上で転送されるため、ファイルを暗号化する必要はありません。また、マルチサイト構造内のすべての会社で ASCII ファイル用の同一のフォーマットを使用しているため、EDIFACT や ANSI X12 などの外部 EDI 標準への変換は必要ありません。

内部 EDI は、(同一のデータサーバの使用または NFS により) 会社ネットワーク上で共通ディレクトリを共有しているサイト (会社) 間でのみ実行できます。また、すべてのサイトで同一のアプリケーションサーバを使用し、たとえばサイト A がサイト B で、A から B に送信されたメッセージを読み込むバックグラウンド処理を開始できるようにする必要があります。このリアルタイムでのメッセージ転送が必要ない場合は、内部 EDI メッセージの転送は変換および通信ソフトウェアを除き、外部 EDI の場合と同様です。

デフォルトデータの使用

Infor ERP LN では、EDI にインポート可能なデフォルトデータを提供しています。

デフォルトデータには、次のものが含まれています。

- ANSI X12 および EDIFACT 標準を代表する、X12 および EDI の各組織。これにより、その他の EDI 要素をグループ化できます。
- X12 および EDIFACT 標準の命名規則に準拠した、組織別にグループ化されたサポートメッセージ
- ASCII ファイルレイアウト および各メッセージのサポートフィールドを定義する、各サポートメッセージ用の 変換設定

- コード変換で利用できる、オーダタイプ、品目コード ID、住所コード ID、および住所タイプに対するデフォルトコード
- セッション別送信メッセージ。これにより、すべてのサポートされた送信メッセージが、EDI メッセージの生成準備を行うセッションにリンクされます。

EDI デフォルトデータの使用

EDI データのエクスポート (ecedi6221m000) セッションを使用して、会社 812 からセットアップデータをエクスポートできます。このセッションでは、会社 812 の EDI パラメータの [標準パス] フィールドで指定された EDI ディレクトリに、defaults.edi ファイルを作成します。

EDI データのエクスポート (ecedi6221m000) セッションを実行する前に、\$BSE に EDI ディレクトリを作成し、このディレクトリのフルパスが、会社 812 の EDI パラメータの [標準パス] フィールドで指定されているかどうか確認してください。

注意

EDI データのインポート (ecedi6220m000) セッションを実行する前に、デフォルトテキストグループのテンプレート (ttams1121m000) セッションでデフォルトのテキストテンプレートを定義し、インポートを実行するユーザにそのテンプレートを割り当てる必要があります。インポートでは、テキストブロックとして格納されている多数の評価式を読み込むため、この処理が必要です。

組織の使用

組織を使用して、現在の会社でどのコーディング技術 (EDI 標準) が使用されるかを判断することができます。ERP アプリケーションでは、会社内での複数のメッセージ標準をサポートしており、各標準に関連する一連のメッセージをメンテナンスできます。

組織は次の用途に使用します。

- アプリケーションと取引先がサポートするメッセージのメンテナンス
- コードテーブルおよび変換テーブルのメンテナンス
- テキストコードテーブルの出力とメンテナンス
- 変換設定のメンテナンスおよび出力
- マッピング情報の出力
- 生成メッセージ (履歴) の出力と表示

取引先の使用

取引先とは特定のネットワークを介して通信することになるため、その特定のネットワークに対する取引先のネットワークアドレスを定義する必要があります。このアドレスは、その取引先に送信されるすべての EDI メッセージ のエンベロープ情報 (メッセージオーバーヘッド) で使用されるテクニカルアドレスです。

ERP アプリケーションからエクスポートされた外部 EDI 向けメッセージの場合、変換通信ソフトウェアによってこのネットワークアドレスが使用され、メッセージをどこにルートするかが決定されます。

ERP アプリケーションにインポートされたメッセージの場合は、受信したメッセージの送信者を識別するためにネットワークアドレスを使用します。

たとえば、変換設定 (デフォルトメッセージファイルレイアウト/マッピング) 用に提供されたデフォルトデータにおいて、ネットワークアドレスをネットワークコードとともに使用して、受信メッセージにおける取引先を判断します。

いずれの場合も、このネットワークアドレスを使用して、ネットワーク別取引先を識別します。ネットワークアドレスは取引先コードと同一にするか、このフィールドを使用して取引先の実際のテクニカルアドレスを指定することができます。どちらを選ぶかは、変換/通信ソフトウェアの機能によって異なります。

取引先は、次の用途に使用します。

- どのメッセージが特定の取引先にサポートされているかの表示
- ネットワーク別取引先識別名のメンテナンスおよび出力
- 取引先固有の変換 (運送業者コード、倉庫、販売契約コードなど) の定義

ネットワーク

ネットワークを使用して、電子データ交換 (EDI) がメッセージ (ASCII ファイル) の保存および検索に使用するディレクトリを指定します。マルチサイトの取引先のデータは、実際の EDI メッセージに変換する必要がないので、内部 EDI データは外部 EDI データから分離する必要があります。

ほとんどの場合、2 つのネットワークが必要です。

- 1 つは、内部 (マルチサイト) EDI に対するディレクトリを表すネットワークです。
- もう一方のネットワークは、外部の取引先へのメッセージ送信を処理する変換/通信ソフトウェアでファイルを交換するためのディレクトリを表します。

ネットワークの使用

ネットワークを使用して、ERP EDI がメッセージ (ASCII ファイル) の保存および検索に使用するディレクトリを指定します。複数会社取引先のデータは、実際の EDI メッセージに変換する必要がないので、内部 EDI データは外部 EDI データから分離する必要があります。

通常は 2 つ以上のネットワークが必要です。その 1 つは内部 (複数会社) EDI のディレクトリ用です。もう 1 つのネットワークは、変換/通信ソフトウェアでファイルを交換するためのディレクトリを表します。このソフトウェアは、外部取引先へのメッセージの転送を処理します。

ネットワークは、次の用途に使用します。

- EDI メッセージと取引先の組み合わせの定義
- 接続スケジュールの定義
- ネットワーク別取引先識別名の記録
- 会社が通信を行うネットワークの識別

ネットワークアドレスの使用

受信メッセージの場合は、ネットワークアドレスを使用して、メッセージの送信元である取引先を識別します。

外部 EDI における送信メッセージの場合は、取引先およびネットワークを変換/通信ソフトウェアに識別させるため、エクスポートした ASCII ファイルにネットワークアドレスを含めることができます。この識別により、変換/通信ソフトウェアは ERP からエクスポートされたメッセージをどこにルートするかを判断できます。

ディレクトリ構造

EDI ネットワークのディレクトリ構造には、以下のサブディレクトリがあります。

- appl_from (外部 EDI 用)
- appl_to (外部 EDI 用)
- appl_comm (内部 EDI 用)
- appl_text
- Command
- trace
- store_recv
- store_sent

メッセージは、サブディレクトリ「/cXXX」に保存されます。ここで「XXX」は、メッセージが読み込まれるべき会社です。

例

基本ディレクトリ「/usr1/edi」には、以下のサブディレクトリが含まれます。

- /usr1/edi/appl_from-----> または /usr1/edi/appl_comm
- /usr1/edi/appl_to-----+
- /usr1/edi/appl_text
- /usr1/edi/command
- /usr1/edi/store_recv
- /usr1/edi/store_sent
- /usr1/edi/trace

複数のディレクトリの作成

複数ディレクトリを作成する簡単な方法は、それぞれの会社用の EDI パスの下にサブディレクトリを作成し、そのディレクトリをそれぞれの会社のネットワークに割り当てることです。

たとえば、会社 420 と 422 の両方を外部取引に使用する場合、会社 422 のネットワークにパス /Home/Edi/422 を割り当て、会社 420 にはパス /Home/Edi/420 を割り当てます。

日付範囲の指定

例 1

開始日が終了日と同じかそれよりも前の曜日の場合。

- 開始日が月曜日
- 終了日が金曜日

期間は、月曜日から金曜日まで (包含) です。

例 2

開始日が終了日より後の曜日の場合。期間は、土曜日から日曜日まで (包含) です。

- 開始日が土曜日
- 終了日が日曜日

1 日 月 火 水 木 金 土
 |-----|

2 日 月 火 水 木 金 土
 -| |

コードおよび変換

受信メッセージおよび送信メッセージ用のコードと変換データを制御できます。コードおよび変換データの情報は、取引先との間で生じる解釈の問題を防ぐために使用します。またこの情報を使用して、ERP アプリケーションと外部システム間での特定タイプのデータの、基本レベルでの変換もできます。

このようなコードは次の 2 つのレベルで定義できます。

- 税金コードや計測単位など、ERP アプリケーション内の特定のフィールドまたは機能と、1 対 1 の関係を有するコード
- 対応するアプリケーション要素がないので、ERP アプリケーション内では直接使用できないコード。一般的にはこのコードは、テキストフィールドまたは参照フィールドで使用されます。

このビジネスオブジェクトのデータは、次の用途に使用します。

- 変換データの定義
- EDI メッセージの処理

コードおよび変換テーブル

コードおよび変換テーブルにより、EDI メッセージ内のコードと ERP アプリケーション内で使用するコード間の関係を定義できます。使用するコードは通常、ANSI X12 や ODETTE などの EDI 標準を代表する組織に関するもので、その組織での使用が承認された一式のコードです。

たとえば計測コードの単位は、通常は EDI 標準組織に固有のものです。内部の単位コード「pcs」を「each」(ODETTE 標準単位) に変換する必要がある場合、単位用の変換コードテーブルを使用して自動変換処理を行います。

変換テーブルを定義する必要があるのは、特定のコードを ERP アプリケーション内でメンテナンスされる内部値から、外部で使用される値に変換する必要がある場合のみです。両方で品目や倉庫などに同じコードを使用している場合は、コードの変換は必要ありません。

必須コードの 1 つは、オーダタイプコードです。受信メッセージの場合、定義されたオーダタイプコードは、ERP EDI で受信や処理が可能な、有効なオーダタイプコードとなります。送信メッセージの場合は、Infor ERP LN ではコードを使用してオーダタイプの変換 (送信) をメンテナンスします。

注意

ERP の EDI におけるコード変換では、コード ID が必要な場合があります。コード ID は、付加的なデータ仕様の変換を可能とする、コード変換で使用する測定子です。コード ID は、変換設定定義の最初の測定子の位置内に転送されます。

追加コード

取引先との間で転送することのあるコードをあらかじめ定義しておくことができます。

このコードは、ERP アプリケーション内では特に用途がないかもしれませんが、情報自体はユーザや取引先にとって役立ちます。

それぞれのコードを定義するために記述します。このビジネスオブジェクトで定義したコードは、変換設定でのコードフィールドの定義方法に応じて説明テキストに変換できます。

また、(対応するアプリケーション要素がないため) ERP アプリケーション内では直接使用できないコードも、このビジネスオブジェクトで定義します。一般的にはこのコードは、テキストフィールドまたは参照フィールドで使われます。

このビジネスオブジェクト内のデータは、EDI メッセージの処理に使用します。

取引先別変換

選択したデータ要素に対して、取引先固有の変換情報を作成できます。つまり、取引先との間での解釈の問題を防ぐのに必要な残りの変換データを制御することができます。

文字変換の使用

文字変換が必要なのは、文字を別の文字に変換する必要がある場合のみです。

例

Infor ERP LN	取引先	変換
A	A	No
A	A	yes
b	b	yes

受信変換データの使用

受信メッセージの場合は、変換データを使用して、EDI メッセージのコードを ERP アプリケーションで使用するコードに変換します。

受信メッセージの変換データは、EDI メッセージの処理に使用します。

送信変換データの使用

送信メッセージの場合は、変換データを使用して、Infor ERP LN アプリケーションのコードを EDI メッセージ で使用するコードに変換します。

送信メッセージ用の変換データは EDI メッセージの処理に使用されます。

受信メッセージの変換データ

受信メッセージ用の変換データを使用して、(取引先からの) メッセージ内のコードを、自社の Infor ERP LN アプリケーションで使用するコードに変換します。

変換データ (送信メッセージ)

送信メッセージ用の変換データを使用して、自社の Infor ERP LN アプリケーションのコードを、メッセージで使用可能なコードに変換します。この変換により、送信メッセージで、取引先固有の正しいデータを転送することができます。

オーダタイプ変換テーブル (送信)

オーダタイプは、オーダやオーダ変更、確認、請求書など、単一オーダに関連する EDI メッセージに使用します。これらの文書に関連した送信 EDI メッセージの場合、オーダタイプ (送信) 用の変換テーブルに入力する必要があります。このテーブルによってコードの正しい変換が指定され、どのタイプの Infor ERP LN オーダ、確認、請求書などが EDI を通じて送信可能か判断されます。たとえば、PN3 タイプの購買オーダは、コード PN3 が変換テーブルにある場合のみ、EDI を通じて送信されます (空白コードに変換されている場合でも)。

EDI を通じて送信されるすべての有効なオーダタイプは、コードテーブルで指定されたメッセージ内の対応コードとともに、オーダタイプ (送信) 用の変換テーブルで指定する必要があります。たとえば、アプリケーションのコード (アプリケーションのコードのフィールド) は ERP 購買オーダ変更文書上のオーダタイプ (PN3 など) を表し、メッセージのコード (メッセージ内のコードのフィールド) は、送信メッセージファイルに含まれる外部値を表します。

メッセージ内のコードはアプリケーションのコードが変換された値であり、文書 (たとえば送信購買オーダ) が ERP EDI を通じてエクスポートされる際に、エクスポートされるメッセージ内に含まれます。メッセージのコードは最初にオーダタイプとしてコードテーブル内で定義する必要があり、現行の EDI 標準 (ANSI X12 購買オーダタイプコードなど) で使用されるオーダタイプを表すのに使用することができます。

EDI における取引先

取引先として考えられるのは、次のいずれかです。

- EDI メッセージを交換する取引先
- メッセージを交換する取引先の親取引先

親取引先を使用する場合、保持される必要のある変換データの量は、最小となります。ただしこの場合、すべての子取引先が同じ変換値を使用することを前提としています。

例

取引先との関係には、以下のものがあります。

- 親取引先: PAR
 - 販売先取引先: abc
 - 出荷先取引先: def
 - 請求先取引先: ghi

EDI を使用して、次のことを行いたいとします。

- abc から EDI オーダを受け取る
- def に EDI 出荷通知を送る
- ghi に EDI 請求書を送る

取引先 abc、def、ghi の親取引先 (PAR) がすべてが同じ場合は、個々の取引先に対して変換を作成するか、(親) 取引先に対してのみ変換値を定義できます。PAR に対して定義されたこの変換値は、abc、def、ghi に対しても有効です。

変換設定

ASCII ファイルは、EDI ソフトウェアと ERP アプリケーション間のリンクです。各メッセージおよび取引先に対するメッセージ内容の、独自の解釈を作成できます。

変換設定の使用

メッセージは、特定の標準に関連するコード (UN/EDIFACT 購買オーダの場合は「ORDERS」、ANSI X12 購買オーダの場合は「850」) で識別されます。

変換設定では、特定の EDI メッセージについて 電子データ交換 (EDI) に送られる、または EDI から生成される ASCII ファイルの ファイルレイアウト を定義します。また、ASCII ファイルフィールドと LN アプリケーションフィールド間のマッピング関係や、各フィールドの有効性確認と変換に関する規則も定義されます。組織およびメッセージタイプ別に、複数の変換設定を定義できます。唯一の制約は、ASCII ファイルのフォーマットが、それぞれの組織およびメッセージタイプで同一でなければならないことです。この制約のため、変換設定 (関係) (ecedi5112m000) セッションで組織とメッセージタイプの組合せに対して関係が定義されます。

LN では、それぞれの組織およびメッセージタイプに対して、一般メッセージデータが 1 回記録されます。一般メッセージデータはオーバーヘッドと呼ばれ、関係する組織およびメッセージタイプに対するすべての変換設定に適用されます。

変換設定は、名前、定義および関係テーブルで構成されます。モジュールがインストールされると基本データがロードされ、すぐに作業を開始できます。まず、コピー可能な類似する変換設定を選択します。適切な変換設定が見つからない場合は、新規のセットアップを作成できます。定義にズームすると、空の定義が生成されます。定義では、宛先ヘッダとラインのあるフィールドのみを修正できます。

変換設定の使用 (名称)

変換設定コードは、次の用途に使用します。

- 取引先にサポートされた EDI メッセージ (ecedi0111s000) セッションでの 変換設定 の取引先とメッセージの組合せへのリンク

- マッピング情報の出力

変換設定の使用 (定義)

変換設定定義は、次の用途に使用します。

- EDI メッセージの生成 (ecedi7201m000) セッションでの、ASCII ファイルの正しい生成
- 受信メッセージの共通セッション (ecedi7220m000) セッションでの、ASCII ファイルの正しい読込

評価式の使用

評価式は、変換設定定義 (ecedi5115s000) セッションでラインを選択する場合に使用します。

ASCII ファイル

ASCII ファイル

EDI メッセージは、ASCII ファイルとして届きます。通常の ASCII ファイルは、読み取り不可能なテキストフォーマット (配列) になっています。この ASCII ファイルを、LN で読み取り可能なアプリケーションファイルに変換する必要があります。この変換は LN EDI ソフトウェアで行われます。

ASCII ファイルはレコードで構成され、レコードは実際の情報を含むフィールドで構成されます。フィールドの例としては、顧客番号、顧客名、顧客住所などがあります。

数種のファイルが互いに関連している場合には、リレーショナルと呼ばれます。リレーショナルファイルは、1つの顧客に複数の住所が記録された場合などに発生します。この例では、顧客番号がキーになります。住所ファイル内で、顧客番号を使用して住所を検索することができます。キーには複数のフィールドを含めることができます。たとえば、1つの住所に対して複数の電話番号が記録されている場合、キーは住所と顧客番号になります。

ASCII ファイルの読み取りまたは作成については、ファイルの処理 (ページ 26)を参照してください。

追跡ファイルの命名

Infor ERP LN では、追跡ファイルの新規バージョンを自動的に生成します。たとえばファイル名が「trace」の場合、LN では次のようなタイプの名称を持つ ASCII ファイルが生成されます。

- trace.0001
- trace.0002

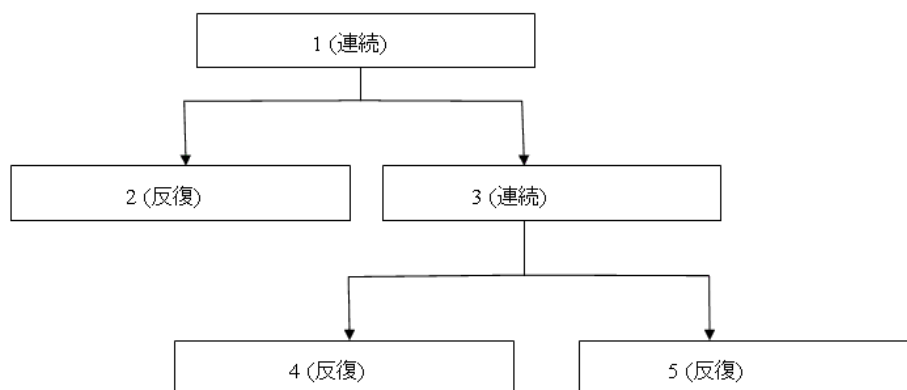
単一の ASCII ファイルの使用

2つのレベルの共通部分 (キー) を指定することで関係を定義することができますが、それぞれの異なるレベルに対して関連レベルを指定する必要があります。他のレベルに関連するレベルは常に連続ですが、他のファイルとの関係を持たないレベルは常に反復です。

例

「単一」ファイルレイアウトの場合、5つのレベルを持つ1つのファイルがあり、レベルごとに一意のレベルIDがあります。

レベル	ファイル	レベル ID
-1	オーダ	ENV
-2	オーダ	MISC
-3	オーダ	ヘッダ
-4	オーダ	ADDRES
-5	オーダ	ライン



現在のレベルより高いレベル番号を持つ関連 (親) レベルのファイルを参照することはできません。

複数の ASCII ファイルの使用

2つのレベルの共通部分 (キー) を指定することで関係を定義することができますが、それぞれの異なるレベルに対して関連 (親) レベルを指定する必要があります。他のレベルに関連するレベル

(親) は常に連続ですが、他のファイルとの関係を持たない (下位のレベルとの関連がない) レベルは常に反復です。

例

「複数」ファイルレイアウトの場合、ASCII ファイルが 5 つあります。

レベル	ファイル
-1	orders1
-2	orders2
-3	orders3
-4	orders4
-5	orders5

ファイルの処理

直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションを使用して、受信 EDI メッセージを受け取ることができます。このセッションでは、取引先から変換/通信ソフトウェアを介して受信した ASCII ファイル、または別の内部 ERP 会社から直接受信した ASCII ファイルを読み込みます。

EDI メッセージの生成 (ecedi7201m000) セッションを使用して、送信 EDI メッセージを生成することができます。このセッションでは、変換/通信ソフトウェアによって ERP アプリケーションからエクスポートされる作成済文書の ASCII ファイルを作成します。

別の方法としては、直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションを使用して、EDI メッセージの受信や生成ができます。ネットワーク (ecedi0120s000) セッションで、ネットワークに対して [接続前の送信メッセージを生成] チェックボックスをオンにすると、直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションでは受信メッセージを読み込む前に、すべての送信メッセージを生成します (EDI メッセージの生成 (ecedi7201m000) セッションの実行に相当)。

これらのセッションを実行して、EDI メッセージの受信や生成をマニュアルで開始することもできますが、EDI 交換コントローラを使用して、このプロセスを自動化することもできます。このコントローラにより、ユーザが定義するスケジュールで、直接ネットワーク通信が開始されます。

インポート/エクスポート

LN アプリケーション内の EDI データをインポートおよびエクスポートすることができます。

電子データ交換 (EDI) モジュール内の設定データの多くはユーザ定義可能ですが、必要な EDI データをすべてデフォルトデータとして提供しています。各会社でこのデータを入力したり変更したりするのを避けるため、設定データを ASCII ファイルにエクスポートして、その設定データを他の会社インポートすることができます。

defaults.edi ファイルには、電子データ交換 (EDI) モジュールを使用しやすくするデータが含まれています。

defaults.edi ファイルからインポートできる情報は、エクスポートすることもできます。変換設定を変更する前に、既存のデータ基準ラインを記録するために、この情報をエクスポートします。変更の結果が望ましいものではなかった場合、オリジナルデータを再インポートして復元します。またこのデータを、複数会社間で共有することもできます。

通信

次の通信を設定できます。

- 外部の取引先と通信を可能とするための、自社のアプリケーションと外部の変換ソフトウェア間での通信
- マルチサイト処理を可能とするための、自社のアプリケーションと別の内部アプリケーション会社間での通信

EDI 交換コントローラ

「Infor エンタープライズサーバ」の「ジョブ管理」モジュールでは、直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションを一定間隔で実行するジョブを作成することで、EDI 処理の自動化を制御します。ただし、「ジョブ管理」モジュールを使用する場合、さまざまなネットワークの EDI メッセージを異なる間隔で生成する必要がある場合、ユーザがジョブのいくつかを開始する必要があります。その結果、個々のジョブの状況を単一の画面に表示することができず、ジョブ管理のしやすさが損なわれます。

間隔を決定するためのより柔軟な方法を提供するとともに、個々のネットワークの通信状況をより的確に把握できるようにするため、EDI モジュールでは交換コントローラを提供しています。

交換コントローラの使用

生成された、またはマニュアルで入力された接続時間にもとづいて、交換コントローラが適切なネットワークに対して、一定間隔で直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションを開始します。交換コントローラは、バックグラウンド処理として起動されます。

交換コントローラの起動はすべてのネットワークに対して、または個別のネットワークを除外して行うことができます。

有効なコントローラがバックグラウンドで実行している状態で、交換モニタを使用して個々のネットワークの通信状況をチェックできます。「Tools」の「ジョブ管理」とは異なり、すべてのネットワークの未処理ジョブ (接続時間) が、単一の画面に表示されます。交換モニタに表示されるのは、当日の未処理ジョブのみです。ジョブが完了すると、リストから削除されます。

あるネットワークの接続時間になると、ERP によってそのネットワークに対して直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションが開始されます。交換モニタには、モニタが起動したときにどのネットワークが有効になっているか (「通信状況」が「有効」)、またそのネットワークによって実行されている特定の活動 (「活動状況」の下に表示される) が表示されます。

外部 EDI ネットワーク通信

交換コントローラは直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションの開始時には常に、セマフォを使用して、現在メッセージを処理中であることを外部ソフトウェア/通信ソフトウェアに示します。

セマフォメカニズムでは、ネットワークの「command」ディレクトリにある空ファイルを使用して、特定のプロセスが有効かどうか、あるいは有効化できるかどうかを示します。このメカニズムによって、ERP EDI と通信/変換ソフトウェアは、同じディレクトリ内の同じファイルに同時アクセスしないようになります。

変換/通信ソフトウェア (トランスレータ) がアクティブになると、「command」ディレクトリに「Comm.yes」というファイルが作成されます。このファイルによって、トランスレータがアクティブ (ただし必ずしも処理中ではありません) であることを ERP EDI に通知します。

外部 EDI ネットワークが、直接ネットワーク通信中にメッセージをインポートすることに加えて、EDI メッセージを生成するように設定されている場合は、EDI によって最初に送信メッセージが生成されます。次に EDI により、送信メッセージの生成が完了した後に、「command」ディレクトリに「Command.fil」というファイルが作成されます。

そのプロセスは、現在送信メッセージを生成していない場合は、直接ネットワーク通信の起動時に「Command.fil」ファイルを作成します。「Command.fil」ファイルの存在によって、変換/通信ソフトウェアに対して、EDI が処理を完了し、変換/通信ソフトウェアが処理を開始できることが知らされます。

変換/通信ソフトウェアは、EDI が作成したメッセージがあれば読み取り、外部取引先から受信したメッセージがあれば生成します。

メッセージが生成されると、EDI によって「command」ディレクトリから「Command.fil」ファイルが削除されます。このファイルの削除によって、EDI に対して、変換/通信ソフトウェアが処理を完了し、受信メッセージの読み込みを開始できることが知らされます。

外部 EDI 通信

外部通信用にネットワークを使用する際、通信ビジネスオブジェクトの一部として処理される、次の 3 つの基本プロセスがあります。

- 内部ファイル構造にもとづく ASCII ファイルの生成
- EDI ソフトウェアの起動
- 受信 EDI メッセージの処理

ERP アプリケーション内でメッセージ (購買オーダーまたは販売オーダー確認) が作成されると、ERP ではそのメッセージに対する ASCII ファイルを、事前定義された変換設定にもとづいて作成します。

外部 EDI ソフトウェアを定期的に起動して、ASCII ファイル (作成したメッセージ) にもとづく EDI メッセージの生成、外部ネットワークとの接続、および EDI メッセージの ASCII ファイルへの再変換を行う必要があります。

EDI の起動頻度は、EDI 交換コントローラ (ecedi7210m000) セッションで決定できます。

外部メッセージを受信すると、ERP EDI によってメッセージデータを保存する ASCII ファイルが作成されます。たとえば、これらのメッセージは内部オーダファイルに読み込まれて処理されます。

エラーにより ASCII ファイルを内部ファイルに変換できない場合は、修正処理後に ASCII ファイルを変換することができます。

内部 EDI 通信

さまざまな内部会社間でのネットワーク通信に、下記の 2 つの機能があります。外部 EDI ソフトウェアは、この環境では使用しません。

- 現在の会社での、ASCII ファイルの生成。EDI メッセージが作成され、EDI メッセージの直接ネットワーク通信が開始されると、ERP によってファイルが生成されます。
- 内部ファイルに変換するための ASCII ファイルの処理。Infor ERP LN により、上記の機能で生成されたメッセージが、メッセージの宛先の会社へ直接ロードされます。エラー条件により ASCII ファイルが内部ファイルに変換できない場合は、[受信予定保存メッセージの処理] セッションでエラーの修正処理後に、データを受信予定保存メッセージ (ecedi7150m000) セッションで変換することができます。

複数会社通信

EDI により、2 つ以上のローカル会社間でのデータ交換が可能です。それぞれのネットワークに対して、ネットワーク (ecedi0120s000) セッションの [複数会社] フィールドを設定することにより、複数会社ネットワークであるかどうかを指定できます。

ユーザの選択に応じて、ERP では以下のディレクトリを生成します。複数会社の場合:

- appl_comm
- appl_text
- trace
- store_recv

外部通信の場合:

- appl_from
- appl_to
- appl_text
- trace
- store_recv
- store_sent
- 複数会社通信の場合、「appl_comm」、「appl_text」および「store_recv」の各ディレクトリ内に、ERP によってサブディレクトリ「cXXX」(XXX は会社番号) が生成されます。

データ交換を行う各内部会社に対して、同一の複数会社ネットワークを生成する必要があります。
[パス]フィールドの値は、各会社内で同一である必要があります。各会社のディレクトリ構造も、同一である必要があります。

複数会社通信のセットアップ

複数会社ネットワークをセットアップする最も簡単な方法は、EDI データのエクスポート (ecedi6221m000) セッションと EDI データのインポート (ecedi6220m000) セッションを使用することです。

任意の会社において、複数会社ネットワーク、必要な EDI メッセージ、および変換設定を、(1 回) 作成します。次にこのデータを、他の会社のコピーできます。

ネットワークデータをインポートする際は、サブディレクトリが存在する必要があります。

EDI メッセージを送りたい会社に直接アクセスできない場合は、受信側に複数会社ネットワークを生成する必要があります。

それぞれの会社に対して、(ネットワーク別取引先 EDI データ (ecedi0128s000) セッションを使用して) ネットワーク ID を入力し、必要な受信/送信 EDI メッセージ (取引先にサポートされた EDI メッセージ (ecedi0111s000) セッションでサポートされた EDI メッセージ) を指定する必要があります。

自動通信

自動通信を行うネットワークおよびその適切な時間間隔を判断します。必要とされる接続頻度を定義できます。接続頻度により、直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションをいつ開始するかが決まります。

頻度にもとづいて、ネットワークごとの接続時間のリストを生成できます。

ERP では、ネットワーク別接続時間 (ecedi0125m000) セッションで次の接続時間をメンテナンスする必要がなく、ネットワーク別接続頻度 (ecedi0122s000) セッションで定義されたデータを使用して、接続時間の計算を行うことができます。ネットワーク別接続時間の生成 (ecedi0225m000) セッションによって、個々の接続時間が生成されます。

結果の表示や修正は、ネットワーク別接続時間 (ecedi0125m000) セッションで行うことができます。

通信の終了

フロントエンド EDI プロセッサ終了 (ecedi0249m000) セッションを実行して、変換/通信ソフトウェアへの通信を終了できます。このセッションでは、「command」ディレクトリに「Command.end」というファイルが作成されます。このファイルが存在することにより、変換/通信ソフトウェアを終了できます。

ERP EDI が備えるこのセマフォメカニズムを使用するには、使用している変換/通信ソフトウェアによって、これらのセマフォファイルが指示どおりに作成、削除、チェックされる必要があります。

セマフォが解除される前に発生する作成、削除およびチェックの処理中に、不要な CPU 容量が割り当てられるのを避けたい場合があります。その場合は、ERP EDI 内の交換コントローラと、変換/通信ソフトウェア内のスケジューリングメカニズムを (順番に、交互の間隔で) 有効化します。

EDI メッセージの使用

メッセージは、次の用途に使用します。

- アプリケーションがサポートするメッセージの、組織と取引先ごとのメンテナンスと出力
- セッション別送信メッセージのメンテナンス
- コードテーブルおよび変換テーブルのメンテナンスと出力
- 変換設定のメンテナンスと出力、およびマッピング情報の出力
- 受信予定保存メッセージの処理

EDI メッセージの作成

EDI メッセージは、EDI メッセージ (ecedi0105s000) セッションで定義するか、defaults.edi ファイルからインポートできます。

送信メッセージの作成

セッション別送信メッセージは、以下のモジュールで作成されます。

- 購買管理 (PUR)
- 販売管理 (SLS)
- 販売請求 (SLI)
- 在庫処理 (INH)
- 電子データ交換 (EDI)

サポート EDI メッセージは、defaults.edi ファイルからインポートできます。

サポートメッセージ

LN は次の表に示すようなメッセージをサポートします。この表には、各 EDI 標準で、これらのメッセージが対応する取引セットコード (またはメッセージコード) が示されています。

EDI 標準メッセージ

-	ANSI X12	EDIFACT	ODETTE	VDA	方向
請求書	810	INVOIC	INVOIC	4906/4908	受信/送信
送金通知	820	REMAADV	REMAADV	4907	受信のみ
購買オーダー	850	ORDERS	ORDERR	4925	受信/送信
PO 確認	855	ORDRSP	CONFOR	4926	受信/送信
事前出荷通知	856	DESADC	AVIEXP	4913	受信/送信
PO 変更	860	ORDCHG	REPORT	4906/4908	受信/送信
PO 変更確認	865	-	CONFOR	4926	受信/送信

各メッセージには、特定の標準に関連したコードがあります。たとえば、「ORDERS」は UN/ EDIFACT の購買オーダーで使用されるコードであり、「850」は ANSI X12 の購買オーダーで使用されるコードです。

それぞれの標準には、メッセージの名前を定義する独自の識別方法があります。

この命名規則は、デフォルトデータ内に保持されています。X12 および EDIFACT の EDI 標準名で、ERPLN メッセージを容易に識別できます。メッセージ名は、カスタマイズ可能です。

サポート EDI メッセージの使用

サポート EDI メッセージは、次の用途に使用します。

- 変換設定のメンテナンス
- マッピング情報の出力
- EDI メッセージの生成
- 取引先にサポートされたメッセージの定義

取引先別 EDI メッセージの使用

一般設定の完了後に、取引先とどの EDI メッセージを交換するかを決定します。すべての取引先が、実装しているそれぞれのメッセージタイプをサポートしている必要はありません。取引先にサポートされた EDI メッセージ (ecedi0111s000) セッションを使用すると、特定の取引先と送受信できる有効なメッセージを確認できます。

また、取引先ごとに異なる追加情報を定義できます。

たとえば、取引先によってメッセージの構造 (フィールドマッピングや変換設定など) が多少異なることがあります。そのような場合、各種の オーダータイプ に対して異なる 変換設定 (ファイルレイアウト) を使用できます。

EDI を生成するには取引先別サポート EDI メッセージを使用します。

取引先別メッセージの収集

ある取引先に関するすべてのメッセージを収集したい場合は、EDI パラメータ (ecedi0100s000) セッションで定義したダミーメッセージを指定する必要があります。ネットワーク別取引先 EDI データ (ecedi0128s000) セッションの [新規バッチ番号] フィールドが [受取人別] である

bano / neta / ...	1
bano / neta / invoice/...	2
- 請求書 1	3
- 請求書 2	
bano / neta / orders/...	2
- オーダ 1	3
- オーダ 2	

生成メッセージ

- 「交換ヘッダ変換設定」: ダミーメッセージに記述されます。このレコードは、それぞれの取引先について生成されます。
- 「メッセージオーバーヘッド変換設定」: ダミーメッセージ内に記述されます。このレコードは、それぞれのメッセージグループについて生成されます。レイアウトはダミーメッセージから取り込まれ、メッセージレコードのレイアウトが違うことにより生じるオーバーヘッドを防いでいます。
- 「交換メッセージ」: メッセージに対して指定されたレイアウトです。

EDI メッセージレベルとファイルレイアウト

変換設定は、EDI メッセージのさまざまな部分 (オーバーヘッド、ヘッダ、ライン、フッタ) を表すレベル間の関係を指定します。

対応するメッセージのファイルレイアウトが「複数」である (メッセージ内のデータが複数の ASCII ファイルに分割されている) 場合、それぞれのレベルは固有の ASCII ファイルに対応します。

対応するメッセージのファイルレイアウトが「単一」である (メッセージ内のデータが単一の ASCII ファイル内に受信される) 場合、それぞれのレベルは固有のレベル識別名に対応します。

受信メッセージの場合は、レベル識別名は変換設定 (関係) (ecedi5112m000) セッションで指定し、送信メッセージの場合は、変換設定定義内でレベル識別名を定義できます。

ERP で以下のことを行うには、関係セットが必要です。

- EDI 交換コントローラ (ecedi7210m000) セッションで正しいファイルを選択して、読み込む (受信メッセージ)
- EDI メッセージの生成 (ecedi7201m000) セッションで、正しい ASCII ファイルを生成する (送信メッセージ)

メッセージデータ

送信 EDI メッセージの場合、EDI メッセージデータには、送信 ASCII ファイルがまだ生成されていない収集済メッセージデータが含まれます。これらの送信 EDI メッセージの場合、生成予定メッセージを表示して削除することができます。

受信 EDI メッセージの場合、EDI メッセージデータには、うまく処理されず ERP アプリケーションに更新されなかった受信 EDI メッセージ (ASCII ファイル) が含まれます。

受信 EDI メッセージは、次のいずれかの理由により正常に処理されません。

- エラー
確認処理中に発生したエラー。エラーを含むデータは、メッセージを再処理する前にエラーを修正する必要があります。
- 対話式レビュー
取引先に対するメッセージは、対話式レビュー用に設定されています。この場合、メッセージの有効性を確認して処理する前にメッセージデータの承認が必要です。

これらの受信 EDI メッセージについては、データの表示、レポート、メンテナンスおよび承認と、関連するエラーや警告があればそれを表示することができます。これらの EDI メッセージは、承認済となるまで再処理できません。これらのメッセージを再処理しない場合は、受信予定保存メッセージを削除できます。

保存 EDI メッセージデータ

以下の理由により、EDI メッセージデータは受信メッセージの共通セッション (ecedi7220m000) セッションで保存され、メッセージの送り先である ERP アプリケーションへの更新は行われません。

- エラー: 有効性確認処理中にエラーが起きたため。メッセージの処理を行う前に、データを修正する必要があります。
- 対話式レビュー: 取引先に対するメッセージが、対話式レビュー用に設定されているため。メッセージの有効性を確認して処理する前に、メッセージデータの承認が必要です。

保存された EDI メッセージデータのメンテナンス

エラーのあるデータを、受信予定保存メッセージ (ecedi7150m000) セッションで表示またはメンテナンスができます。このセッションから、メッセージデータと関連エラーを表示できます。受信メッセージエラー (ecedi7551m000) または受信 EDI メッセージエラー (ecedi7151m100) セッションにズームングすることで、付加的なエラーや警告を表示できます。

メッセージデータは、受領予定保存メッセージデータ (ecedi7151s000) セッションで修正することもできます。

受信予定保存メッセージの承認 (ecedi7250m000) セッションでメッセージの承認を行った後、保存された EDI メッセージを受信予定保存メッセージの処理 (ecedi7252m000) セッションで再処理することができます。

保存されたメッセージが受信予定保存メッセージの処理 (ecedi7252m000) セッションで問題なく処理され、ERP アプリケーション内に更新されると、その保存されたメッセージは自動的に受信予定保存メッセージから削除されます。

メッセージの処理を行わないと判断した場合は、受信予定保存メッセージの削除 (ecedi7251m000) セッションでメッセージを削除できます。これらのセッションにはいずれも、受信予定保存メッセージ (ecedi7150m000) セッションの適切なメニューからアクセスできます。

参照番号の構築

参照番号は以下のフィールドで定義します。

- 固定部分
- 日付フォーマット
- 先頭空番号

参照番号は、以下のような構成になります。

- 固定部分/日付/連番
- 固定部分/連番
- 日付/連番

参照番号は、常に 14 桁で構成されます。連番は、固定部分や日付で使用されない位置に入ります。

メッセージの対話式処理

受信メッセージは、対話式でまたは自動的に処理できます。

メッセージを対話式として設定した場合、直接ネットワーク通信 (ecedi7205m000) セッションを実行するとメッセージが直接格納されます。これらのメッセージは、有効性が確認されません。

受信メッセージの有効性が確認される前、また受信メッセージによって ERP アプリケーションが更新される前に、受信メッセージをプレビューできます。

受信予定保存メッセージ (ecedi7150m000) セッションを使用して、それらのメッセージの表示、修正、承認および処理を行います。

エラーありメッセージの再処理

受信メッセージの処理を行う際、ERP ではメッセージが ERP アプリケーション内で更新できない原因となる、有効性確認エラーが発見される場合があります。その場合、ERP はメッセージ全体を保存するため、受信予定保存メッセージ (ecedi7150m000) セッションを使用することができます。このセッションで、データエラーを表示して修正し、メッセージを承認して再処理することができます。

履歴

特定のメッセージを追跡できるよう、受信メッセージと送信メッセージの履歴が両方とも保持されます。

EDI履歴を使用して、特定のトランザクションが実際に送信または受信されたかどうかを検索できます。またEDI履歴を使用して、特定の取引先との間で送受信されたメッセージの数を確認したり、送信メッセージの状況を追跡したりできます。

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

サポート EDI メッセージ

アプリケーションによってサポートされる受信メッセージまたは発信メッセージ。これらのメッセージは有効 (会社内で実際に使用) または無効にできます。

組織

EDI 通信で使用する標準 (ANSI X12、UN/EDIFACT、VDA など) のセットを表すコード

EDI メッセージ

組織とメッセージから成る電子ドキュメント (たとえば、電子オーダー承認)

受信メッセージまたは発信メッセージは、EDI 通信セッションで呼び出された特定のライブラリで処理されます (たとえば、販売管理 (SLS)、販売請求 (SLI)、買掛金 (ACP)、現預金管理 (CMG)、購買管理 (PUR)、在庫処理 (INH)、電子データ交換 (EDI) モジュール)。

EDIFACT

この頭字語は、管理、商取引および輸送用電子データ交換 (EDI) を表します。電子データ交換 (EDI) の国際的な標準化団体です。

標準 EDIFACT メッセージの独自のサブセットを使用する同様の標準化団体 (Odette など) が他にいくつかあります。

メッセージを定義するときは、慣れ親しんでいる標準命名規約と一致する命名規約を使用できます。

ファイルレイアウト

受信メッセージのデータが単一ファイルまたは複数ファイルに常駐するかを示すフォーマット。単一ファイルの場合、[レベル識別名位置] フィールドは、(変換設定で定義された) レベル識別名の位置を示します。このレベル識別名は、ASCII ファイルのレコード (ヘッダ、ヘッダテキスト、ラインなど) を識別します。

取引先にサポートされたメッセージ

特定の取引先で使用される EDI メッセージ。取引先と特定のメッセージ (着信または発信) がリンクされた後でのみ、その取引先はその特定のメッセージで ERP アプリケーションと通信することができます。

セッション別送信メッセージ

組織によって、特定の ERP セッションで作成されたメッセージ

ネットワーク

同じソフトウェアを使用する姉妹会社へのデータフローを間接的に (EDI 変換による付加価値情報通信網 (VAN) での通信など) または変換しないで直接管理するために使用する通信ネットワークを識別するコード

接続頻度

特定のネットワークとの接続を確立する回数

接続時間

特定のネットワークとの接続が確立される時間

ネットワークアドレス

ネットワーク内のユーザまたは取引先を識別するために使用するコード。一般に、これらのアドレスはネットワーク管理者によって割り当てられます。

追跡ファイル

読み取られた、または作成された ASCII ファイルの処理データを含むファイル

参照番号

発信メッセージを識別するために使用する採番システム。この番号は EDI メッセージの生成時に作成され、そのメッセージを一意に識別します。メッセージに所属する実際のデータが複数の ASCII レベルで配信されるため、この番号はメッセージのどの部分が一緒に所属しているかを識別するためにも使用されます。

オーダータイプ

オーダーの性質または機能、およびその結果としてのメッセージの性質や機能を指定するために使用するコード

例:

- 通常オーダー返品オーダー
- 請求書対貸方票

オーダー手順の一部であるセッション (の順序) を決定する分類。次の分類の 1 つをオーダータイプに割り当てることができます。コストオーダー、コレクトオーダー、返品オーダーおよび外注オーダー。

オーダータイプコードは、単一オーダーに関連する ERP の EDI メッセージで必要です。単一オーダーに関連する EDI メッセージには、次の処理を行うメッセージが含まれています。

- オーダー (ANSI X12 850、UN/EDIFACT ORDERS)
- オーダー変更 (ANSI X12 860、UN/EDIFACT ORDCHG)
- オーダー確認 (ANSI X12 855 および 865、UN/EDIFACT ORDRSP)
- 請求 (ANSI X12 810、UN/EDIFACT INVOIC)

文字変換

メッセージに配置される前に、ERP アプリケーションの文字を変換する方法を示す規則

変換設定 (名称)

メッセージヘッダ (グローバルオーバーヘッド) の基本変換コード、およびメッセージの変換方法のための 1 つまたは複数のコード。コードは、各組織、メッセージおよび方向 (およびフィールドタイプ) に対して定義されます。

変換設定 (定義)

EDI メッセージを変換するために使用する方法

評価式

実行される変換設定のライン、および実行されない変換設定のライン、ASCII フィールドで記入されるフィールドおよび記入されないフィールドを示す式

生成予定メッセージ

生成のためにマークされているが、ASCII ファイルにまだ取り込まれていない EDI メッセージ

受信予定保存メッセージ

受信 EDI メッセージの処理時に読み取られる保存された EDI メッセージデータ

変換設定

メッセージデータを含む ASCII ファイルのレイアウトを定義するコード。このコードは、ERP アプリケーションテーブルと ASCII ファイルとの間のデータ要素のマッピングに関する情報を含みます。事前に定義された変換設定を使用できますが、独自の変換設定を作成することもできます。

アプリケーション内のコード

メッセージを送る前に変換する必要がある、ERP アプリケーションで使用するコード。たとえば、オーダータイプまたは取引先 (顧客または発注先) コード。

メッセージ内のコード

使用している ERP アプリケーション内の値との変換が必要な特定の EDI メッセージ内で使用される標準コード。たとえば、EDI メッセージには、LN で使用されているものとは異なる計測単位が含まれている場合があります。この計測単位は、正しい計測単位が EDI メッセージに転送されるように、変換されなければなりません。

変換テーブル

様々なコード変換値、および外部コード (メッセージ内のコード) と ERP アプリケーション内のコードとの変換値の関係を保管する ERP アプリケーションのテーブル

EDI 標準

2 つの取引先間で電子的に転送されるデータ (メッセージ) の処理、手順、フォーマットを定義する国内レベルおよび国際レベルで定義されたプロトコル

defaults.edi ファイル

EDI データが含まれる ASCII ファイル

このファイルには、以下のデータが含まれています。

- ネットワーク
- アプリケーションがサポートするメッセージ
- 組織がサポートするメッセージ
- 組織
- コードテーブル
- 変換設定
- EDI 式
- サポートされた発信メッセージの処理セッション

appl_from

EDI によって生成されたすべてのメッセージを保管するディレクトリ。このディレクトリは、変換/通信ソフトウェアがエクスポートのためにファイルを検索する場所です。このディレクトリは、複数会社 (内部 EDI) ネットワークには含まれません。

appl_to

LN アプリケーションで受信するすべてのメッセージを保管するディレクトリ。このディレクトリは、変換/通信ソフトウェアが EDI で処理し、インポートするファイルを書き込む場所です。

このディレクトリは、複数会社 (内部 EDI) ネットワークには含まれません。

appl_comm

内部会社で読み取る必要のある生成メッセージを含むサブディレクトリ

appl_text

テキストブロックを構成するために使用する一時ファイルのディレクトリ。メッセージにテキストフィールドが含まれる場合、レコードはこのディレクトリに存在します。

Command

電子商取引で、セマフォに使用されるディレクトリ

サードパーティの取引/通信ソフトウェアと通信する際に、セマフォまたはフラグを使用して、サードパーティソフトウェアと ERP の EDI が同時にファイルにアクセスしないようにします。このセマフォ機構は、このサブディレクトリに空のファイルを作成したり、削除したりすることによって、特定のプロセスが有効になるとき、あるいは有効にできるときを示します。

trace

作成されたログ (追跡) ファイルを含むディレクトリ

store_recv

受信したすべてのメッセージのログをとるディレクトリ

store_sent

送信したすべてのメッセージのログをとるディレクトリ

ANSI

この頭字語は、米国規格協会を表します。ANSI は、米国規格と呼ばれる一貫した自主基準を策定する主要団体です。また、ANSI は非協議標準化団体の米国代表でもあります。

X12

米国内取引での産業間電子交換の ANSI 標準。信任された米国規格協会のサブコミティは、産業アプリケーション間での取引の標準データフォーマットの開発を担います。

電子データ交換 (EDI)

標準フォーマットの標準ビジネス文書のコンピュータ間転送。内部 EDI は、同じ内部会社ネットワーク (マルチサイトまたは複数会社とも呼ばれる) 上での会社間のデータ転送を意味します。外部 EDI は、自社と外部取引先間のデータ転送を意味します。

取引セット

購買オーダー、請求書、または販売オーダーなどのビジネス文書一式。取引セットは、文書またはメッセージと同義です。

VAN

回線速度変換およびプロトコル一致などの、EDI のための通信サービスを提供する会社

VDA

「Verband der Automobilindustrie (自動車工業会)」の頭文字: ドイツにおける自動車業界取引の電子交換標準。この標準では、固定長のフィールド/レコードフォーマットを使用します。

索引

- ASCII ファイル, 24, 25, 25, 26
 - 使用, 24
 - 処理, 26
 - エラー, 40
 - メッセージ, 38
 - データ, 38
 - テーブル
 - コードおよび変換, 19
 - 適切なメニュー, 43
 - 履歴, 41
 - マスタデータ, 11
 - EDI, 9
 - 導入, 11
 - 取引先, 13
 - 使用, 13
 - 別変換, 20
 - サポート EDI メッセージ, 35, 36, 43
 - 使用, 36
 - 組織, 13, 43
 - 使用, 13
 - EDI メッセージ, 35, 35, 35, 35, 36, 36, 37, 40, 41, 43
 - 作成, 35
 - 使用, 35
 - 処理, 40
 - EDIFACT, 43
 - ファイルレイアウト, 38, 43
 - 取引先にサポートされたメッセージ, 44
 - セッション別送信メッセージ, 44
 - ネットワーク, 15, 15, 44
 - 使用, 15
 - 接続頻度, 17, 44
 - 使用, 17
 - 接続時間, 44
 - ネットワークアドレス, 15, 44
 - 使用, 15
 - 追跡ファイル, 24, 44
 - 命名, 24
 - 参照番号, 39, 44
 - 構築, 39
 - オーダタイプ, 22, 45
 - 文字変換, 20, 45
 - 使用, 20
 - 変換設定 (名称), 23, 45
 - 変換設定 (定義), 24, 45
 - 評価式, 24, 45
 - 使用, 24
 - 生成予定メッセージ, 45
 - 受信メッセージ
 - 変換データ, 21
 - 受信予定保存メッセージ, 45
 - 変換設定, 23, 23, 23, 24, 25, 25, 38, 45
 - 使用, 23, 23, 24
 - アプリケーション内のコード, 46
 - メッセージ内のコード, 46
 - 変換テーブル, 22, 46
 - オーダタイプ (送信), 22
 - EDI 標準, 46
 - defaults.edi ファイル, 46
 - appl_from, 46
 - appl_to, 46
 - appl_comm, 46
 - appl_text, 47
 - Command, 47
 - trace, 47
 - store_recv, 47
 - store_sent, 47
 - ANSI, 47
 - X12, 47
 - 電子データ交換 (EDI), 9, 47
 - 取引セット, 47
 - VAN, 47
 - VDA, 47
 - デフォルトデータ
 - 使用, 12, 13
 - EDI の一般セットアップ, 10
 - EDI セットアップ, 10
 - 電子データ交換の導入, 11
 - 外部 EDI, 11, 30
 - 使用, 11
 - 内部 EDI, 12
 - 使用, 12
 - 通信、セットアップ, 32
 - 内部 (マルチサイト) EDI, 12
-

マルチサイト EDI, 12
EDI デフォルトデータ, 12, 13
ディレクトリ構造, 16
サブディレクトリ, 16, 16
複数ディレクトリ
 作成, 16
ディレクトリ, 16
日付範囲の指定, 17
コードおよび変換, 19, 20, 20
コードおよび変換テーブル, 19
追加コード, 20
取引先別変換, 20
変換データ, 20, 21, 21, 21, 21
 受信, 21
 受信メッセージ, 21
 送信, 21
 送信メッセージ, 21
受信変換データ, 21
 使用, 21
送信変換データ, 21
 使用, 21
送信メッセージ, 35
 作成, 35
 変換データ, 21
EDI における取引先, 22
ファイルの処理, 26
インポート/エクスポート, 27
通信, 29, 30, 32
 終了, 32
EDI 通信, 29
 外部, 30
 内部, 31, 31
EDI 交換コントローラ, 29, 29
交換コントローラ, 29, 29
 使用, 29
外部 EDI ネットワーク通信, 30
ネットワーク通信, 30, 30, 31, 32, 32
外部 EDI 通信, 30
内部 EDI 通信, 31, 31, 32
複数会社通信, 31
 セットアップ, 32
複数会社通信のセットアップ, 32
自動通信, 32
通信の終了, 32
EDI サポートメッセージ, 35
取引先別 EDI メッセージ
 使用, 36
 収集, 37
EDI メッセージレベル, 38
保存 EDI メッセージデータ, 39, 39
 メンテナンス, 39
EDI メッセージデータ, 39, 39

メッセージの対話式処理, 40
エラーありメッセージの再処理, 40
EDI 履歴, 41
